



# 2020年アメリカ大統領選挙を身近に感じて

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 柳井 香美 (警視庁派遣)

## 選挙の動き

2020年の米国大統領選挙は、例年とは少し異なる雰囲気であったと言えそうです。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で郵便投票が増加したため、一部の州では集計作業の遅れや票の数え直しが行われました。また、開票を監視する権利が奪われたなどと主張する共和党のトランプ大統領陣営による訴訟の動きも異例さを増長させました。各州の集計結果を見ると、バイデン氏が獲得した選挙人は過半数の306人に達する見込みであり、ラストベルト（錆びついた工業地帯）に位置するミシガ

ン州やウィスコンシン州も奪回するなど、共和党陣営にとっては痛い敗北となりました。さらには、近年、共和党の牙城とされる南東部のジョージア州も民主党のバイデン氏が優勢となったことは、支持政党を問わず、米国民にとって驚きであったようです。

本記事を執筆している11月16日の段階では、全州の当選確実が出揃ってバイデン氏の勝利が決定的となっており、トランプ氏による訴訟の動きが今後どのように選挙の結果に影響するのかは不透明のままです。しかし、勝利演説が既に終わり、各国首脳とも電話会談が行われている状況から見ても、バイデン氏の勝利は揺るがないものであると判断している人が多いと感じます。



勝利の行方は？



候補者をサポート！

## 投票日前後の まちの様子・支援者の様子

筆者の住居はマンハッタン島西側のハドソン川を隔てたニュージャージー州にあります。同州もニューヨーク州と同様に民主党が強く、クリントン政権以来の青色（青色は民主党のシンボルカラー。共和党は赤色）の州です。近所の家々の庭には、自らがサポートする候補



者の名前が書かれたボードが立てられており、バイデン氏と副大統領候補のハリス氏を推すものが目立っています。しかし、近隣を気にせずトランプ氏のボードを堂々と掲げる家も見られ、自己主張を厭わない米国らしさを感じさせます。

投票日翌日の11月4日午前中、筆者は通勤のためにマンハッタン内を30分程歩きましたが、エンパイア・ステートビルの正面や高級ブランドを扱うテナントなどに板張りをしている店舗が多く見られました。選挙結果に不満を持つサポーターらの暴動に備えているようでした。



板で覆われたエンパイア・ステートビル

また、テレビやインターネットのニュースでは、両党の選挙人獲得状況が刻々と伝えられていました。大方の州は4年前の状況と似た形で推移していましたが、やはり有権者の目は激戦州に注がれていました。中でも選挙人数の多いフロリダ州では、票の集計途中からの共和党の追い上げもあり、国民もかなり注目している様子でした。全米において両党の獲得票が拮抗していることに加えて、投票日深夜のトランプ氏による開票を打ち切るべきだとの演説、その後の民主党が票を盗んだなどとする訴訟への動きは、少なからず有権者らを熱くさせる要因となっているようでした。

そんな中、両党によるデモも各地で行われ、ニューヨーク市内では、トランプ氏の動きに反対して、「Count Every Vote (全ての票を数えろ)」と叫ぶ人々が集まりました。大方は平和的なデモでしたが、参加者の一部は警察官と衝突し20人程の逮捕者が出ています。また、共和党の支持基盤の強いアリゾナ州でもデモが行われ、同党の支持者らはライフル銃を振り上げながらトランプ氏への支持を訴えていました。



票の集計を訴える人々

## バイデン氏による勝利演説

全州での集計作業が終わるのを待たず、7日夜にはバイデン氏による勝利演説が彼の地元であるデラウェア州ウィルミントンで行われました。報道では、彼の「This is the time to heal in America.」(米国は癒すとき)、「I pledge to be a president who seeks not to divide but unity, who doesn't see red states and blue states, only sees the United States.」(私は分断ではなく統合を追求する大統領になり、赤い州や青い州ではなく合衆国全体を見ることを誓う。)などの言葉に焦点を当てていました。同様に副大統領候補であるハリス氏も、彼を「healer」、「uniter」であると紹介するなど、「癒し」と「統合」に触れていました。

この「癒し」が、4年間のトランプ政権へ向けての言

葉であるのか定かではありません。しかし「統合」については、共和党に投票した有権者へ向けて語り掛けられ、同氏が目指す米国のためには国民の結束と和解が不可欠であることが強調されていました。

さらに、新型コロナウイルスの犠牲者となった方々への慰め、今後の具体的なウイルス対策、人種や民族・信仰などにとらわれない全ての国民に公平な国をつくることなどが語られました。人種差別の根絶、品位の回復、さらには、気候変動を制御して地球を守り、米国が良い状態であれば全世界の指標になるとまで述べていました。社会的な少数派や弱者の権利・支援を是とし、国際社会との協調や対話交渉を重んじる民主党の姿勢を物語る演説だったと言えます。トランプ氏が強調する「アメリカ・ファースト」という言葉とは大分趣の異なるものと感じられました。

## 共和党とその支援者

バイデン氏による勝利演説からは、次期政権を担う民主党の方針を窺い知ることができました。年明けの就任演説においても、力強い言葉によって新しいアメリカをリードする姿を見せてくれることが期待されます。

一方で、選挙で敗北したトランプ氏にもかなりの票が集まりました。獲得選挙人数は232人と及ばなかったものの、その数は約7,300万票以上（バイデン氏は約7,800万票以上）に達すると見込まれ、前回選挙時よりも獲得票数は多い状況です。筆者は、複数の共和党支援者の知人にトランプ氏の敗北理由を尋ねてみましたが、「郵便投票に不正があることは確かだよ」、「既に亡くなった人に投票用紙が送られるような選挙がフェアだと言える？」など、トランプ氏の訴訟に同調する声が多く聞かれました。14日には、極右勢力などが率いた

数千人の支援者がホワイトハウス近くに集まり、「Stop the STEAL! (票の盗みを止めろ!)」、「MAGA (Make America Great Again)」等のボードを掲げ、このまま選挙戦を終わらせたくないとする多くの支持者が選挙の不正を訴える様子も報道されていました。

共和党のコンサバティブ（保守主義）は、民主党のリベラルとは反対に「小さな政府、大きな経済」という言葉でしばしば表現され、政府の巨大化による汚職、増税、規制の強化などを嫌います。経済や社会の分野においては、規制緩和や減税を進めて自由な市場競争を目指し、銃規制に反対する姿勢などに見られるように、地域社会を中心とした自治の伝統を重んじます。国際社会や他国によって自国の利益を左右されまいとするのもコンサバティブの特徴です。トランプ政権の功績に関しては賛否両論ありますが、アメリカが明らかに損をすることやフェアでないことを避ける「アメリカ・ファースト」の軸は、多くの国民の支持を得ているようですし、それが今回の得票数や簡単には敗北を認められない大統領本人や支援者の行動にも表れていると言えそうです。

余談ですが、筆者は2019年、警察関係者の集まるフォーラムにおいてトランプ大統領のスピーチを聞く機会がありました。殉職または怪我を負った警察官の労苦を労い、悪は絶対に許さないとする断固とした意志が強く示された演説で、5,000人も聴衆者がスタンディング・オベーションをするほどの感動的なものでした。彼の人を魅了する言葉遣いの巧みさやしぐさに改めて感心させられました。（大統領自らが、車いす生活を余儀なくされた警察官を舞台袖まで押していた姿は、とてもパフォーマンスとは思えない彼の優しさの一面を見たような行動でした。）

## 終わりに

前述のように、今回の米国大統領選挙は少し異例の展開で進められており、トランプ氏の訴訟の動きなどからはまだまだ目が離せない状況です。しかし今後どのような形で落ち着くにせよ、自国を憂い、選挙に熱くなる米国民を身近に感じ、同時に二大政党の動きに注目することができたことは幸運であったと感じています。今後も、政党の背景、大統領自身の発する言葉などを意識しながら、米国の動向を見ていきたいと思えます。



「MAGA」を叫んだ4年間